

2023年/北東アジア平和と友好の旅

# 近代日本のはじまりを考える旅

～植民地下に置かれた台湾を訪ねて～

2023年12月10日(日)～14日(木)・5日間

=感想文集=



3/12 二二八記念公園のモニュメントの前にて/台北市

企画・実施/日本コリア協会・大阪 大阪私学退職者の会 日本中国友好協会大阪府連合会  
協力/ JU 観光旅行友の会

この企画旅行には今回6回目の参加でした。台湾は3回目で、1回目は会議で台北のみ、2回目は普通の旅行社のツアーでほぼ台湾を一周し今回と重なる都市もありましたが、今回のようなテーマを設定した旅行ではありませんでしたので、というか、普通の旅行社では日本の植民地支配の跡地をたどるようなコースを設定することはまずないでしょう。

旅行に先立ち大分前に古本で買ったまま未読であった呉濁流『アジアの孤児』と加藤邦彦『一視同仁の果て 台湾人元軍属の境遇』を読みました。『アジアの孤児』の主人公は植民地教育を受けたインテリで日本人への同化に努めるが日本人からは差別を受け、大陸に渡って中国人として生きようとするが、台湾人と知れると日本の手先と差別される。そのような身の置き所のない台湾人を描いています。『一視同仁の果て 台湾人元軍属の境遇』は軍人・軍属として戦場に送り出された台湾人の戦後の悲惨な境遇を描いています。日本敗戦後、台湾人は日本国籍を与えられず一切の補償の対象外でした。とくに戦場で負傷、失明、手足を喪失した兵士たちの戦後は悲惨でした。現在の日本人の中でこういう歴史を知っている人がどれだけいるか甚だ心許ないところですが、台湾人の歴史認識は複雑だろうと思います。明朝、清朝の支配そして日本の植民地支配下になりますが、その後の国民党政権による厳しい戒厳令下に置かれていたため、日本の支配が相対化され親日的な人が多いのも一面の事実でしょう。ガイドを勤めてくれた鮑さんもその1人のようでした。

二二八記念公園は民主化された台湾を象徴する場所でした。その後に金瓜石黄金博物館区に行きましたが、金化石鉱山が想像以上に大きな規模を有する鉱山であったことは意外でした。1930年代日本の鉱山王と称された久原房之助はこの鉱山を買収して台湾鉱業株式会社を設立、東洋一を誇る大鉱山であったことは後で調べて分かりました。鉱山区から金化石神社址に向かいましたが、急な階段道をどんどん登って行ってもそれらしい所はなく、上から下りてくるハイキング帰りに見える人にまだ遠いか聞くとまだまだと答えるので、どうも不審に思い引き返しました。その途中で神社に向かう分岐を見落として直進してしまったことに気づきました。後で地図を見た所では茶壺山に登る登山道だったようです。坂道を足下に注意しながらも急いで下りましたが、集合場所に戻るのが遅れてしまい皆さんに申しわけなかったと思います。黄金博物館に寄る時間がなかったのは残念でした。そこから捕虜収容所跡に向かいました。途中速くに関羽像が見えました、歩いて行くうちにすぐ脇を通過することになり改めてその巨大さに圧倒されました。

捕虜収容所跡は現在公園になっており、記念碑とその説明文があります。アジア太平洋戦争が始まり日本はシンガポール攻略で捕虜にしたイギリス人、オーストラリア人 500人以上をここに連行してきて鉱山労働にも従事させ、さらにその後も捕虜は連行され 1,000人以上に増加して、台湾各地に設置された捕虜収容所にも拘禁されました。判明している捕虜名につて「拘禁された連合軍捕虜」として、軍隊内の階級、姓名、国籍が大きな石の板に刻まれています。多分千人以上でしょう。国籍はUKに並んでUSAも非常に多いことに気づきました。捕虜虐待については泰緬鉄道建設の強制労働やフィリピンにおけるバターン死の行進が知られています。この石碑に刻まれている米国人はフィリピンから連行された捕虜だろうと推察しました。

他にもいろいろ書くべき事はありますが、長くなるのでこのくらいにしておきます。